

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：32660

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12701

研究課題名（和文）国政選挙における党内立候補者の政策重点の違い

研究課題名（英文）Analyzing Variances among Intra-Party and Inter-Party Politicians

研究代表者

松本 朋子（Matsumoto, Tomoko）

東京理科大学・教養教育研究院神楽坂キャンパス教養部・講師

研究者番号：50783601

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：この10年余り、選挙のたびに野党の離合集散が続き、有権者の投票行動に混乱を与えている。本研究では、このような問題関心から、選挙が政治家の発言や政策立ち位置に及ぼす影響に着目し、研究を実施した。研究は主に二つに分かれる。一つが、選挙を起点に生じた2017年の野党分裂が生じた理由を、専門家調査を実施し統計的に解析することにより考察した研究である。そして、もう一つが、議会議事録に記録される政治家の発言をテキスト解析することにより、選挙までの任期が政治家のパフォーマンスに及ぼす影響を解析する研究である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

政治のアカウンタビリティを強めるためには、有権者が政党の政策立ち位置と政治家の任期期間中の行動を正確に評価することが重要である。2017年の選挙では野党間の政策差が強調されたが、争点化された政策以外では政策一致も存在したことが研究により判明した。また、政治家は選挙直前になると自身のパフォーマンスを強調するための言動を増やすことも研究により判明した。これらの研究成果は、選挙において、選挙直前の政治家の行動を考察するだけでなく、任期中の政治家の行動全体を有権者が振り返り投票することがアカウンタビリティをあげる鍵であることを示唆している。

研究成果の概要（英文）：In the past decade, a recurring trend has been observed in which opposition parties have become increasingly split with each election, leading to confusion among voters. This concerning issue serves as the focal point of this study, which aims to explore the influence of elections on politicians' statements and policy positions. The study consists of two primary sections. The first section investigates the factors contributing to the 2017 opposition split resulting from the elections. This investigation is carried out through an expert survey and a statistical analysis of the obtained data. The second section focuses on evaluating the impact of the pre-election term on politicians' performance by employing textual analysis of their statements documented in the parliamentary proceedings.

研究分野：政治学

キーワード：選挙 政党 議会 議事録 サーベイ

1. 研究開始当初の背景

2010年代の日本政治は、投票率の低さと野党の離合集散という二つの問題が同時に発生した。2000年代の日本は、野党の結集が進み、小選挙区比例代表制のもと、二大政党制に向かう機運が観察され、投票率も回復傾向にあった。しかしながら、一転して2010年代に入ると、投票率は戦後最低の低さを記録し、野党の離合集散も相次いだ。有権者の間で政治不信が高まり、そして、混乱をも与える10年だったと言える。

2. 研究の目的

本研究は、このような社会情勢に鑑み、有権者が正確に政治家・政党を選挙で評価することが手助けとなるような知見を提供することを目的に、主に二つの方向性から研究を行った。

- (1) 第一が、与野党の政策立ち位置を定量的に明らかにすることにある。野党の離合集散が続く中、与野党の政策立ち位置を正確に把握することは、有権者にとって困難を極める状況にある。本研究では、2017年の衆議院選挙直前に生じた野党分裂に注目し、同年の選挙における、政党間の政策対立を定量的に示すことを試みた。
- (2) 第二が、同じ政党に属していても異なる行動を行う政治家への理解を深めることにある。1994年に小選挙区比例代表並立制が衆議院選挙で導入されて以来、日本では候補者よりも政党のイメージ・政策が重視されるようになったと言われる。しかしながら、現実には、同じ政党に属していても政治家の間でかなりの差異が見られる。さらに言えば、同一の政治家でも言動は時と共に変化する事態も観察される。本研究は、政治家の議会内での発言に注目し、議員の発言(テキストデータ)を定量的に解析することで、彼らの発言の変化がどのようなモチベーションによって生じているのかを明らかにすることを試みた。

3. 研究の方法

本研究では、研究手法として定量的な解析を用いた。それぞれの研究において、使用したデータは以下の通りである。

- (1) 2.で述べた第一の研究については、2017年衆議院選挙直後に、共同研究者と共に、Qualtricsを使って調査フォームを作成し、日本政治の専門家に各政党の政策立ち位置を回答してもらう専門家調査を行った。従来、この専門家調査は東京大学加藤淳子教授のもと紙媒体で行っていたが、今回からQualtricsを用いて、インターネット調査で行った。(その結果、回答数が大幅に増加した。専門家調査で得られたデータをもとに、政党の政策立ち位置を共同研究者と解析したが、その際、専門家間で解答の際に生じる特異項目機能(Differential Item Functioning)問題に対処するため、Alderich-McKelvey法とBlackbox transpose scalingsと呼ばれる空間分析手法を用いた。上記の手法を適用することにより、政策分野別の各政党の政策立ち位置を推定した。
- (2) 2.で述べた第二の研究については、二つの議事録を共同研究者とともに収集した。一つが、都道府県レベルの地方議会議事録であり、もう一つがインドの議会議事録である。両者ともに収集ではウェブスクレイピングとOCRを利用した。収集した議事録の政治家の発言を政治家ごとに、また日別に記録することによって、政治家の発言がどのように変化するのかを分析した。政治家の発言の変化が生じる要因として着目したのが、選挙である。任期終了までの期間がどれほどなのか、また前回選挙の結果がどうであったのかといった選挙情報を個々の議員情報と結びつけて分析することによって、政治家の発言が選挙にどのように影響を受けているのかを考察した。

4. 研究成果

- (1) 2.で述べた第一の研究については、2023年9月に山本先生、久保先生との共同研究として、論文の出版に至った。書誌情報は以下の通りである。Kubo, Hiroki, Tomoko Matsumoto, and Kentaro Yamamoto. "Party switching and policy disagreement: scaling analysis of experts' judgment." *Japanese Journal of Political Science* 23.3 (2022): 254-269. 本研究で着目したのが、2017年当時、最大の野党陣営であった民進党の分裂である。2017年の選挙では、なぜ、以前から存在しながらも不活発だった防衛政策の不一致が、大きな分裂につながる争点となったのかという疑問に答えるため、専門家調査の結果を分析した。以下の通りである。まず、2017年当時の民進党においては、防衛政策に対する立場が明確に区別され、分党化が進んでいること確認された。しかし一方で、環境、地方分権などの政策については、政党の立場を表す空間上の位置が明確に収斂しており、党内で一致していることも判明した。さらに、分析からは、党分

裂直前に、防衛政策が争点として政治化したことを示唆する知見も得られた。党分裂は選挙で防衛政策が争点化される機運の中で生じたものであり、党分裂は政策的不一致から不可避という印象を世論に与えたが、分裂した旧民進党所属議員の間では、政策一致も素材することが確認された。

本研究は、また、アンケート調査を分析する際には、回答者の回答をそのまま用いるのではなく、回答者の個性を廃し、補正したデータを用いることの重要性も再確認された。一般に、アンケート調査の際には、回答者は返答を「とても反対」、「反対」、「どちらかといえば反対」といった何段階かの選択肢から選択するように要求される。しかし、回答者によっては「とても反対」から「とても賛成」までの選択肢を全て使う人もいれば、「どちらかといえば賛成」から「どちらかといえば反対」の間の選択肢しか使わない人もいる。こういった回答者の個性を補正する手法をこの研究でも用いており、この補正が精緻な解析に不可欠であることを再確認させた。

また、本研究では、DIFの補正結果を、回答者間の見解の一致度という面からも考察した。政党の政策立ち位置は必ずしも常に明瞭であるとは限らない。政策軸によっては、党内でも対立があり不明瞭な立場をとることもある。しかし、不明瞭な政策立ち位置は有権者が政策投票をする上では望ましいとは言えない。そのような意味で、今回行った、政策立ち位置の明瞭度を考察する方向性は、今後の研究動向においても重要な視座を与えたものと考えられる。

- (2) 2. で述べた第二の研究については、ワーキングペーパーを共同研究者と執筆し、研究報告会で関連する研究者にコメントをいただき、論文出版に向けて、現在推敲を重ねているところにある。

既に得られている知見は以下の通りである。政治家は残りの任期が短くなると、より具体的な政策計画を言及する努力を重ねる傾向にある。その傾向は、再選に危機感を持っている政治家の方が強い。このことは、いくつかの示唆を与えている。第一に、選挙は競争性の高い選挙であればあるほど、政治家が任期中に積極的に議会活動をする傾向にあるということである。近年、地方選挙の中には無投票選挙も生じているが、議員の議会活動の活性化という面からはこのような事態が望ましくないという示唆が得られる。また、政治家は残りの任期が短くなるほどに具体的な政策形成に努めるということは、政治家の任期が短い方が勤勉となるという可能性も示唆する。そして、この事実は言い換えれば、政治家は選挙の直前とそうではない時期では行動を変えているということも示唆する。有権者は投票の際に直近の政治活動を思い浮かべ投票を行いがちであるが、任期中を俯瞰して判断することが重要性を示唆するものと言える。

プロジェクトは現在進行形で継続しており、ジェンダーに関する政治家の発言差、また、政党間の差を客観的な差ではなく有権者の主観的な認知という面から探求する研究など、ワーキングペーパーに至っていない進捗途中の分析結果があり、現在、論文執筆に向けて、結果の分析を進めている。また、国際サーベイ調査を行った際の国家間で同じ概念に対し回答者が異なる認知をしていることを計量的に解析し特定する研究も初歩的な成果を得、現在も分析を続けている。引き続き、研究を遂行し、論文出版に向けて、研究を完遂させたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Magishi Kihei, Matsumoto Tomoko, Shimada Yutaka, Ikeguchi Tohru	4. 巻 13
2. 論文標題 Investigation of the structural features of word co-occurrence networks with increasing numbers of connected words	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Nonlinear Theory and Its Applications, IEICE	6. 最初と最後の頁 343 ~ 348
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1587/nolta.13.343	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kihei Magishi, Tomoko Matsumoto, Yutaka Shimada and Tohru Ikeguchi	4. 巻 1AM2
2. 論文標題 Effects of Document Characteristics on Language Network Structure	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP'21)	6. 最初と最後の頁 45-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 眞岸祈平 松本朋子 島田裕 池口徹	4. 巻 1
2. 論文標題 単語の使用頻度と言語ネットワークの構造的特徴の関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 2021年電子情報通信学会総合大会講演論文集	6. 最初と最後の頁 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 眞岸祈平 松本朋子 島田裕 池口徹	4. 巻 N
2. 論文標題 文書内容の違いが言語ネットワークの構造に与える影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 電子情報通信学会2020年ソサイエティ大会講演論文集	6. 最初と最後の頁 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Kubo, Tomoko Matsumoto, and Kentaro Yamamoto	4. 巻 23
2. 論文標題 Party switching and policy disagreement: scaling analysis of experts' judgment	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 254-269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1468109922000160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本朋子	4. 巻 70
2. 論文標題 女性の政治参加は進んでいるのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Voters	6. 最初と最後の頁 10-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 11件)

1. 発表者名 福家水月、松本朋子、島田裕、池口徹
2. 発表標題 Colexificationネットワークにおける感情とハブ
3. 学会等名 電子情報通信学会総合大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福家水月、松本朋子、島田裕、池口徹
2. 発表標題 An investigation of basic emotions by colexification network
3. 学会等名 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP'22) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kihei Magishi, Tomoko Matsumoto, Yutaka Shimada, and Tohru Ikeguchi
2. 発表標題 Investigation of the structural features of word co-occurrence networks with varying the numbers of connected words
3. 学会等名 NonLinear Science Workshop (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 眞岸祈平 松本朋子 島田裕 池口徹
2. 発表標題 文書内容の違いが言語ネットワークの構造に与える影響
3. 学会等名 電子情報通信学会ソサイエティ大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 眞岸祈平 松本朋子 島田裕 池口徹
2. 発表標題 単語の使用頻度と言語ネットワークの構造的特徴の関係
3. 学会等名 電子情報通信学会総合大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kihei Magishi, Tomoko Matsumoto, Yutaka Shimada and Tohru Ikeguchi
2. 発表標題 Effects of Document Characteristics on Language Network Structure
3. 学会等名 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSP'21)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Jun Goto, Tomoko Matsumoto, and Junichi Yamasaki
2. 発表標題 Political Statement Cycle
3. 学会等名 Annual Meeting of European Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Jun Goto, Tomoko Matsumoto, Junichi Yamasaki(報告)
2. 発表標題 Political Statement Cycle
3. 学会等名 東京労働経済学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jun Goto, Tomoko Matsumoto(報告), Junichi Yamasaki
2. 発表標題 Political Statement Cycle
3. 学会等名 the Northeast Workshop in Japanese Politics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jun Goto, Tomoko Matsumoto, Junichi Yamasaki(報告)
2. 発表標題 Political Statement Cycle
3. 学会等名 the 34th Annual Congress of The European Economic Association the 72nd European Meeting of the Econometric Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Junko Kato, Hiroki Kubo(報告), Tomoko Matsumoto, and Kentaro Yamamoto
2. 発表標題 Analyzing Latent Dimensionality in Japanese Party Ideological Competition
3. 学会等名 the 115th American Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤淳子、久保浩樹(報告)、松本朋子、山本健太郎
2. 発表標題 専門家調査を用いた日本の政党の政策位置と政党間競争の分析
3. 学会等名 日本政治学会2019年研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 眞岸祈平(報告)・松本朋子・島田裕・池口徹
2. 発表標題 日本語訳と英語訳の聖書を対象にした言語ネットワークの解析
3. 学会等名 電子情報通信学会研究会(SICE-DES研究会, IEICE-MSS研究会, IEICE-NLP研究会併催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Jun Goto, Tomoko Matsumoto, and Junichi Yamasaki
2. 発表標題 Political Statement Cycle
3. 学会等名 The Joint Conference of the 6th Asian Political Methodology Meeting and the 2nd Annual Meeting of the Japanese Society for Quantitative Political Science (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jun Goto, Tomoko Matsumoto, and Junichi Yamasaki
2. 発表標題 Political Statement Cycle
3. 学会等名 京都大学現代政治ワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jun Goto, Tomoko Matsumoto, and Junichi Yamasaki
2. 発表標題 Political Statement Cycle
3. 学会等名 Annual Meeting of Midwest Political Science Association(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Junko Kato, Hiroki Kubo, Tomoko Matsumoto, and Kentaro Yamamoto
2. 発表標題 Analyzing latent dimensionality in Japanese party ideological competition
3. 学会等名 Annual Meeting of Midwest Political Science Association(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jun Goto, Tomoko Matsumoto, Junichi Yamasaki
2. 発表標題 Who Suggests Policies for the Future?: A Historical Randomization of Tenure Lengths in the Indian Parliament
3. 学会等名 Annual Meeting of Midwest Political Science Association(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Tomoko Matsumoto, Kenneth McElwain, Kensuke Okada, Junko Kato
2. 発表標題 The Economic and Political Preferences of Japanese Homemakers
3. 学会等名 AAS (Association for Asian Studies) 2023 Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------